

# 地震・津波(固体地球)科学分野

## 学会からのオーソライズあるいは話し合い方法の具体化の提示

- 地震発生予測
  - コミュニティで次期研究計画WG案(11/26コミュニティ内で検討会)で、HPCを活用した予測システムが、中核的役割を果たす方向で議論が進んでいる
    - 関係大学、独法、地理院・気象庁等で構成
- 強震動、津波伝播、地盤震動、避難予測等：
  - 3/15のワークショップでロードマップについて議論する予定
    - 東大地震研共同利用研究(堀教授@地震研を中心に、地盤震動評価等を行う複数の大学(工学系)、インプットとなる発生予測・強震動・津波計算の大学・独法(理学系)など)
- 固体地球科学一般
  - 大規模データ解析への活用について議論
  - シミュレーション関係は未定(ESコンソーシアムメンバー活用の可能性)
    - コア対流、マントル対流、etc.
- 地球惑星科学連合大会での特別セッション採択

## 2013年地球惑星科学連合大会 特別セッション

- ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来
- 代表コンビーナ: 日野亮太
- コンビーナ: 本蔵義守、金田義行、有川太郎、市村強、前田拓人、堀高峰
- 本セッションは、固体地球科学分野においてハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)を梃として今後10~20年を目標に解決すべき社会的・科学的課題を整理し、現状と将来の期待を議論する。特に、HPCが実現する地震・津波による災害軽減に向けたシミュレーション技術の高度化や、近年の地震・津波観測網の充実に伴うビッグデータの新たな解析手法の開発、幅広い時空間スケールをカバーする固体地球モデル構築など、固体地球の予測科学の発展に向けた課題と展望について考える。現在HPCを活用する分野はもちろん、それ以外の幅広い分野からの発表と議論への参画を期待する。